

必ず必要なのは、利便性 でも本当にほしいのは、人のやさしさ

アナログは人のやさしさでできている

田中手帳株式会社は、昭和12年創業、手帳一筋で87年も業界を支えてきた製造会社です。文字通り手帳を作ることだけに心血を注いできた会社が、なぜ今防災の取り組みを始めることになったのか。それは、手帳の持つ「人の生活を記録する」という特性が、自然災害伝承碑などで見ると、石碑に刻んでまで記録を残そうとする人々の思いに通じるものがあるという、弊社代表の田中の気づきから始まっています。



写真は、平成30年の西日本豪雨に見舞われた広島で、実際に過去に災害があった場所で再び災害が起こったという写真です。自然災害伝承碑はこういった事例を通じ、地図記号で表記されるようになりました。



←実際の地図記号

(出典：国土地理院ウェブサイト)

利便性の高いアプリの開発が進み、AIの使用が民間でも日常になった昨今、それでもどうにか伝えようという人の行い（やさしさ）が最も人の心を揺り動かすのは過去から変わりません。

田中手帳が得意とする糸とじの製本技術は、長い時間をかけて洗練され、最も人に使い勝手の良い形であるユニバーサルデザインと呼ばれるべきものになっています。当然使用方法の説明はいりません。

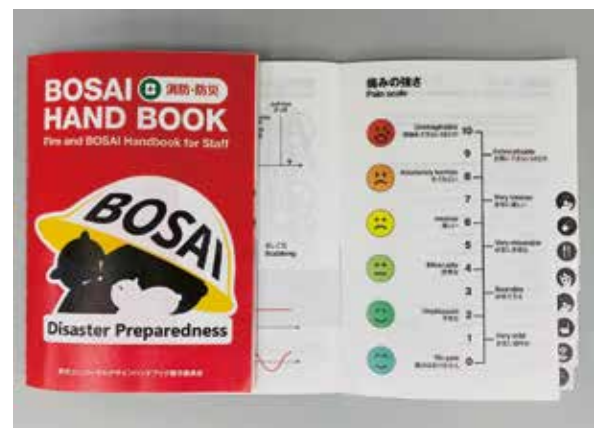
見るだけで用途のわかるもの。アナログは人のやさしさでできています。

万博と防災

2025年4月13日より、日本では大阪・関西万博が開催されます。弊社で提案した「BOSAI ユニバーサルデザインハンドブック」は、ユニバーサルサービスにおける提案物品としての有効性が認められ、万博への協賛が決定しております。

弊社では自然災害伝承碑の存在を周知する目的のスタンプラリーを開催していましたが、「伝承碑」や「防災」という言葉に難しさや堅苦しさをを感じる人が一定層いることを痛感していました。そのため、万博という日本を挙げての一大イベントには、防災をキャッチーなものとしてアピールする必要性を感じ、防災=BOSAIへ、BOSAIをデザインする考えに至りました。

実際に万博で配布されるハンドブックには、デザインコンペで最優秀賞に選ばれたロゴマークが表紙を飾っています。



防災=BOSAIは「MANGA」などと同じく日本が海外へ発信できる、優れた文化です。

けれども、まずは日本人こそが自助と共助の精神を持ち、コミュニティの中で災害弱者（要配慮者）を取り残さない態勢を整える必要があります。

災害への恐ろしさよりも助け合いを描くロゴマークは、人の繋がりが一番の備えであると教えてくれます。

BOSAI をデザインする

「防災」は日本で培われた命を守る知恵・文化です。

周知されて久しい日本発の「MANGA」同様に「防災」も「BOSAI」として、世界へ発信すべき文化のひとつであることは疑う余地ありません。しかし日本語特有のやわらかなニュアンスは、なかなか伝わりにくいものです。そこで目指したのが、まず「防災」をシンボル化すること。

防災ユニバーサルデザインハンドブック制作委員会（代表
構成員：田中手帳株式会社 代表取締役 田中尚寛）

2024年12月1日、BOSAI ロゴマークデザインコンペティション最終選考会を開催しました。応募作品総数は672点にのぼり、防災・国際性・デザイン性など多岐に渡る視点を持つ5名の審査員により、最優秀作品が選出されました。

■「猫の親子」のロゴマークが示すもの

ヘルメットで猫の親子を守るデザイン。日頃からの備えで暮らしやコミュニティを守ることを表現。強く外側を守るという考え方だけでなく、同じ環境にいる生活者として隣人を守る「共助」の姿が、かわいらしいモチーフで描かれています。

■防災を英訳する Disaster Preparedness

審査員に加わっていただいた英国領事館 総領事

キャロリン・デービッドソン氏が、コンペを通して感じた日本の「防災」のニュアンスを、見事に英訳してくれました。

「BOSAI」が周知されるために、日本語以外の言語を交えて伝えていくのも重要な取り組みのひとつと考えています。



Disaster Preparedness



応募期間：2024/5/15 ~ 2024/7/14
最終応募総数：672点
最優秀賞：富永浩史さん（賞金 100 万円）
優秀賞：3 組 長尾和正さん／
中島敬子さん・田口賀奈子さん／
堀聖悟さん・田久保比奈子さん

コンペ審査員 5 名（五十音順）

生田英輔 氏
大阪公立大学都市科学・防災研究センター
現代システム科学研究科 教授

篠塚正典 氏
株式会社イデアクレント代表取締役
東京コミュニケーションアート専門学校 学校長
大阪デザイン&IT テクノロジー専門学校 学校長

清水証行 氏
青空株式会社 代表
大阪芸術大学デザイン学科 教授
大阪市特別参与

2024 年 12 月 1 日 最終選考の様子



キャロリン・デービッドソン 氏
英国総領事館 総領事
一般社団法人 関西領事団 団長

幡多伸子 氏
大阪市浪速区長
大阪市区長会議くらし・安全・防災部会 部会長

人 命最優先のためのシンプルさ

日本は世界有数の災害発生国であり、近年では風水害の頻発化や激甚化が見られます。近い将来には首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの発生も心配されており、政府でも防災庁の設置が進んでいるところです。利便性の高いアプリなどによるリスクマネジメントが叫ばれる一方で、デジタルに頼りすぎるリスクも囁かれるようになりました。であるなら、どちらの準備しておくことが求められることなのかもしれません。

弊社で制作を進めた大阪・関西万博仕様の「BOSAI ユニバーサルデザインハンドブック」は、アナログであることの利点を最大限に活かしたものになっています。個人モバイルを活用するアプリのダウンロードを強く促す一方で、今日の前にいる人と意思疎通をするためのコンテンツが多数掲載されています。

左：消防・防災用 中央：医療・救護用 右：来場者用（制作中）



MUD 技術を駆使したのは、誰でも／どんな年齢の人でも／どんな国籍の人でも／複数人でも、説明いらずで直観的に使用できる必要があるためです。何よりも防災事を想定すると、コミュニケーションにためらう1秒が命を分けても不思議ではありません。ページをめくりやすくする技術を駆使したり、耐水性の用紙を使ったり、筆談のできるページを設けたりもしました。電力もネット環境も必要としない、シンプルかつ軽量のコミュニケーションツールが発災時には必要です。

①優れた耐水性／プラスチック代替素材「プラレス」使用



②インデックス加工／使用者を問わない使いやすさ
製本技術におけるユニバーサルデザイン



③糸とじ製本／丈夫で安全、360度開ひらきます



誰にとっても使いやすい MUD 技術を駆使したハンドブック